

平成 30 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
 代表者名 代表取締役社長 富士本 淳
 (JASDAQ・コード 6425)
 問合せ先 経営企画室 広報・IR 課
 電話番号 03-5530-3055 (代表)

通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表いたしました連結業績予想値と、本日公表の実績値において差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

●通期連結業績予想値と実績値の差異について

平成 29 年 12 月期通期連結業績予想値と実績値の差異 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 101,000 ～115,800	百万円 16,700 ～24,500	百万円 16,700 ～24,500	百万円 15,800 ～20,900	円 銭 200.28 264.92
今回実績値 (B)	68,546	△9,807	△12,829	△13,426	△170.18
増減額 (B-A)	△32,454 ～△47,254	△26,507 ～△34,307	△29,529 ～△37,329	△29,226 ～△34,326	
増減率 (%)	△32.1% ～△40.8%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	111,187	28,609	27,036	18,629	252.66

(修正の理由)

事業セグメント別にみると、パチスロ・パチンコ事業は、営業黒字は確保したものの、改正された『風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則』施行の影響により、ホールの投資意欲が大きく減退、業界全体とともに、売上も低迷しました。一方、カジノリゾート事業は、建設の遅れにより売上げが伸びず、人件費等の固定費負担を吸収できない中、営業赤字となりました。加えて、米国での Wynn Resorts との裁判におけるディスカバー（証拠開示手続）に関する訴訟関連費用等の本社費用も大きく、後述の土地売却を計画しながらも、結果的に連結での赤字を埋めるには至らず、当期業績実績値と差異を生じることを余儀なくされました。

そのような状況の下、当会計期間中の重要な取引として、フィリピンで保有する土地

44ヘクタールのうち約6ヘクタールを、契約金額約300億円、売却益200億円以上で高級マンション用地等として売却する基本合意書が昨年中に締結されておりました。当該土地はカジノリゾート事業での建設予定がなく、建築資材置場として利用されていた予備的なエリアに、高級コンドミニアムを誘致し、カジノリゾート事業の拡大するために主としてハイローラー等の集客の相乗効果も狙った計画エリアでした。また、この土地の売却により、大幅に上昇しているフィリピンの土地の含み益の実現も目的の一つでした。

しかしながら、当該基本合意書に規定されている建築機材の完全撤去等、契約を実行するためのいくつかの条件を期限内に満たせず、当該取引は今2018年12月期に延期に至ったため、当期業績実績値と差異を生じることとなりました。

今後の事業計画では、まず国内事業の規制強化による市場縮小に対して、遊技システムの共通構造化、ソフト開発の分散蓄積化、リサイクル対応等を含む徹底した高度な合理化による構造化設計の効果から、利益率が高まり、単体決算での赤字化は避けられたことから、更にパチンコの構造化を急ぐことで、市場縮小の中でも安定した黒字化を維持出来る体制を構築します。また、従来からフィリピンでのロケテストと関係許認可の手続きを進めていたITC（Information Technology Coordinator）型の最先端カジノ管理システム及びリアルタイム為替対応システムの商品化を急ぎ、メーカー事業をカジノ分野まで広げて収益力の強化を図ります。

次に、フィリピンでのカジノリゾート事業は、当初の計画よりも大幅に遅れたものの、立地、市場環境の良さにも支えられて、集客力は予測以上に推移していることから、体制を強化して本格稼働を急ぎます。

以上